

## スーツ用布地の Tailorability の予測

奈良女子大 家政 丹羽 雅子

目的 Tailorability は、布を差しの外観と寸ぐれた性能をもつ三次元の衣服に仕立てる、あるいは形成するしやすさで、本研究では高級質衣服の設計のために、Tailorability を布の基本力学特性から予測する方法を導き、縫製工場での実地実検によりその精度を推めた。

方法 仕立て上ったスーツの外観、形態の差しさを、縫製関係の熟練技術者によって5段階評価して得られた評価値を Total Appearance Value (TAV) とする。1978年~1985年にかけて夏用スーツ 894種、冬用 651種の TAV と、これらの布の基本力学特性を KES-F システムにより計測した。基本力学特性から、曲面形成能 Formability, ドレープ性, 動的シールドの差しさや形態保持性に関わる弾力性, 伸縮率によって評価される布品質の差し評価値 Total Hand Value (THV) をこれらで開発した式で算出し、これらから TAV を予測する式を導く。TAV の予測式は、TAV が台形分布するようは無作為に夏用、冬用スーツ他から 194 種選出、線型式を作成し、残る多数の布に適用して式の精度を実検した。

結果 Tailorability の評価値 TAV を布の3次元方向の Formability, Springy, Drapability, THV の4つの性能値を用いて精度よく予測できる式を導いた。夏用、冬用スーツ他のもうこれにも評価者間のばらつき以下の良好な的中率で予測計算できることを確認した。また、布の伸縮率による品質評価の差し評価値と、その THV の TAV への寄与が 33% で、動的シールドにかかわる弾力性、ドレープ性および曲面形成能のもうこれら 22% 程度の均等な寄与を示すことが分析され、TAV の予測式は衣服の性能上からも妥当であり、その実用性を確かめられた。本研究に協力した奈良女子大 梅田 昌絵 姉妹に謝意を表す。